

研究室便り（2004年度）

新緑の美しい季節となりました。卒業生の皆様におかれましては、ますますご清祥のことと拝察申し上げます。

まず最初に、現在の研究室の構成についてご報告致します。今年度、西洋史学研究室のスタッフは、ドイツ中・近世史がご専門の神竇秀夫教授を主任として、現代史（国際社会主義研究）を専門とされる山内昭人教授、フランス中世史の岡崎敦助教授の3名の先生方で構成され、さらに別府大学からは古代ローマ史の山本晴樹先生、福岡大学からはイギリス近代史の松塚俊三先生をお招きし、古代から現代までの幅広いテーマをカバーする演習が開講されています。また、7月には国際基督教大学の高澤紀恵先生による「近世パリに生きる」と題する集中講義が行われます。そのうえ3年生以上の学生を対象に、各先生の専門に分かれて実習が行われており、西洋史研究を始めるにあたって、知的生産の技術の修得やデータ処理の方法、歴史の見方や考え方を理論的に把握すること、さらには自分のテーマを見つけ、研究史をおさえ、卒業論文を完成させるまでの一連の作業・方法論について、大変きめ細かい指導が行われています。このように学部生は恵まれた環境の中で、卒業論文を最終目標に日々研究に励んでおります。

この4月に研究室は多くの進・入学生を迎えて総勢42名となり、大変活気に溢れています。まず元気いっぱいの新2年生10名（男子4、女子6）が進学してきました。全員が入学以前から大学では西洋史を専攻したいと考えていたようで、彼らのやる気に満ちた眼差しに上級生一同非常に良い刺激を受けています。また修士課程にはフランス中世史の千原隆太さんと、同じくフランス中世史を専門とする安部恵理香さんが入学してきました。修士課程2年にはドイツ近世史の大場はるかさんとイギリス現代史の古藤史彦さんが在籍し、修士論文に向けて熱心に取り組んでいるところです。博士課程には、ブルガリアの社会主義運動を専門とする岡部直樹さんが進学し、ドイツ・スイス中・近世都市史の森崇浩さん（本年7月上旬からスイス政府留学生として1年間バーゼル大学に留学します）、古代ローマ史の谷本拓也さんとともに研究者への道を邁進しています。大学院もこのように拡充し、院ゼミや特研では高度な議論が繰り広げられる一方で、彼らが主体となって下級生のゼミの予習を手伝うなど、まさに研究室の牽引力となっています。また、オーバー・ドクターの方々も元気に諸大学の非常勤講師を勤め、博士論文の完成に精進しておられます。

これまで、修士2年の大場・古藤さんが忙しい勉学の合間を縫って研究室運営に多大な貢献をしてきていましたが、今年度より、フランス近世史を専門とする小山啓子が本研究室の助手に着任致しました。これまで培われてきた研究室の良き伝統と今後のさらなる発展に少しでも寄与できればと思っております。至らぬ点も多いかと存じますが、ご指導・ご鞭撻の程なにとぞよろしくお願い申し上げます。

卒業生の皆様、お近くにお越しの際はぜひ研究室にお立ち寄りいただき、後輩たちを叱咤激励して下さいましたら大変幸いです。また、ご著書を刊行なされました節には、是非とも当研究室にご寄贈くださいますよう、何卒よろしくお願い致します。末筆ながら、皆様のご健勝と一層のご発展を心よりお祈り致しております。

(小山啓子)